

南丹市総合教育会議議事録

<令和2年度第1回>

令和3年3月17日

令和2年度第1回南丹市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和3年3月17日(水)
開会：午後3時30分 閉会：午後5時15分
- 2 場 所 南丹市役所 2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題
(1) 地域道徳教育について
(2) 令和3年度南丹市のまちづくり重点事項について
(3) 教育課題について
- 4 出席委員
西村市長
木村教育長、武田教育長職務代理者、高屋委員、城戸委員、淵上委員
- 5 会議に出席した職員
＜説明員＞ 中川教育次長、榊教育参事、柴田教育総務課長、
山内学校教育課長、平井学校教育課参事、藤林社会教育課長
＜事務局＞ 船越市長公室長、國府企画財政課長、片山企画財政課企画係長
- 6 傍聴人 1名
- 7 会議の経過

＜1＞開会（進行：事務局）

◇市長あいさつ

皆様よくご存知のように、地方教育行政の組織と運営に関する法律では、市長部局と教育部局がそれぞれ独立をして行政と教育行政をそれぞれ担う姿から、平成27年に法律が改正され、教育委員会制度では教育委員長職が無くなり、教育長と合わせて5名の教育委員さんにお世話になることになりました。従来は市の行政と教育行政が独立した縦分けでしたけれども、綿密に連携・協力しながら教育を進めていくこととなりました。お互い意見交換、情報交換や議論をしながら教育の方向性について、双方に理解しながら力を合わせて進めていく方向が確立しました。

私が就任してから3回目の総合教育会議になります。世の中には色々な教育上の課題もあります。教育会議でテーマとしたい内容はたくさんあります。例えば、幼保小の連携の在り方、子どもの人権の課題、引きこもり・不登校の問題をどう対応していくのか、働きながら豊かな子育てができる環境づくりをどうしていくといいのか。最近新聞を賑わしている貧困対策、子どもの貧困対策の問題は、本市でも一生懸命に取り組んでいただいております。地域の文化を活かした人づくり、教育づくりをどうしていくのか。私の頭の中には、色々な方々と力

を合わせて、これからの南丹市のまちづくりを進めていかなければならないテーマや現実の課題がたくさんあります。教育委員会で今年度より精力的に取り組んでいただいている地域道徳は、非常に幅の広い概念です。地域を愛し、地域を守っていく、郷土愛溢れた子どもを育むことが南丹市を発展させていくことであり、ふるさとを守っていくことでもある。大変、的を得た地域道徳の在り方です。

今日は取り組みの検証、更に発展していくための課題などをご議論いただけたらと思います。更には令和2年度の補正予算では小学校トイレの洋式化、GIGAスクールに向けての取り組み、指導者用デジタル教科書の導入、子ども達の読書活動を推進するための図書カードの配布などの取り組みを進めてきました。令和3年度も引き続いてコロナの状況下での学校への対応なども含めて、後ほど説明もいたしますが令和3年度の予算編成を提案しています。議会でこれから議決をいただきますが、中間的に令和3年度の方向性についても少し説明もさせていただければと思っております。コロナの状況の中で、幸い本市では教育関係の皆様方、教育委員さんも含めまして最大を努力をして、修学旅行に行くことができ、運動会・体育祭も何とか出来た。色んなイベントが細々ながらもコロナ対策を講じながら何とか出来た。休校期間は大変長かったです。学習の遅れも取り戻せていると聞いております。最小限の影響で子ども達の学びの場が推進されたと思っております。そのあたりも課題などがございましたら話し合っていけたらと思っております。

市の行政と教育行政ががっちり手を組むためには、こういう場で色んな角度から議論をして、意見を交換していくということが極めて大切でございます。後ほどフランクな議論ができればと思っておりますのでどうぞよろしくお願いを申し上げます。開会にあたってのご挨拶にさせていただきたいと思っております。

◇教育長あいさつ

第1回の南丹市の総合教育会議を開いていただきありがとうございます。今も市長からご挨拶があったように、教育行政につきましても色んな課題がありますけれども、教育委員さんと協力しながら色んな課題の解決に向けて今、尽力をしているところでございます。

最近、GIGAスクール構想の中で京都府でいち早く、2月末で全ての小中学校にタブレットが入りました。早速、先日、園部中学校で研究授業をしていただきました。南丹市の小中の先生方、亀岡市、京丹波町、京都府教育委員会、京都府総合教育センター等々の方に出席していただきました。「これだけ早い時期に授業ができるのは凄いな」という評価を受けております。そういう中で今日は地域道徳につきまして市長に説明をさせていただきまして、今後、教育委員会といたしましても取り組みを進めていきたいと思っております。

今日はこのような場所をセッティングしていただきました事務局の皆様にお礼を申し上げます。尚、教育委員の皆様におかれましては市長からございましたように、ざっくばらんに意見を出していただきまして協議が進みますようによろしくお願いいたします。

(1) 地域道徳教育について

○教育委員会事務局から資料により説明

【要旨】

- ・地域社会では新型コロナウイルス、少子高齢化の課題がある。今後も少子高齢化が進み、今の子どもが働く頃には多くの高齢者を支えていくことが予想される。
- ・学習指導要領の改訂で、『「社会に開かれた教育課程」の実現』が明記され、各学校・地域・保護者が一緒になってカリキュラムをつくることになった。そのツールであるコミュニティスクールでは、学校・地域・保護者がフラットに話し合う「熟議」を介して、目標を共有し、その実現に向けて機運や当事者意識を高めている。
- ・令和元年度の全国調査の結果を見ると、本市の子どもは規範意識・道徳的心情は育っているが、道徳的行為・行動力に課題がある。その解決のために地域、保護者と一緒に子どもの道徳を育む「地域道徳」に取り組むことにした。
- ・学校の道徳教育の充実と地域学校協働活動の活用を図りながら、取り組みを実践していく。文部科学省の事業を活用するにあたり八木中ブロックを推進地域に指定し、その取り組みを全市的に広げていく。
- ・令和2年度から3年間の指標を作成。令和2年度は導入期として研修会、公開授業、成果報告会等を実施。令和3年度は充実期として、道徳の授業に打ち合わせから振り返りまで地域・保護者に参画してもらう。令和4年度は発展期として、コミュニティスクールとともに地域道徳の定着を図っていく。

【委員】

先日も教育委員会の中で説明いただいて、地域道徳はよく出来ているなど感じました。これに運営協議会を絡ませて、学校を核として狭い範囲の中で進めていこうと。ただ、私が思うのは一番最後の「これからの広がり」。地域にじわじわとどれだけ浸透させていくのか。時間も労力もかかり最終的に本当に長いスパンでしか結果が出ないと思う。その辺が非常に難しいところかなと思います。先ほどのピラミッドがありましたけれども、少子化、高齢化、人口減になると、地域道徳を進めていただいて地域のことに関わったり、地域を良くしよう、学校を良くしよう、素晴らしい子ども達を育てていこう、後継者を育成しようという気持ちを地域の方々に育んでいってもらう必要がある。日本の人口が減っていますので全国の市町村が定住促進に取り組んでいますけれども、人口を増やすことは難しいと思います。こういう取り組みが今よく言われている活動人口を増やしていくようなことに繋がっているのではないかと感じています。本当にこれが上手くいくことを望んでいますし、スタートとしては非常によくできた形だと思っています。

私たちがそうですが、まずはここに参画している方々とか学校運営協議会、よく理解のある方が少しずつ広めていく、仲間を増やすことが必要なのかなと思いました。

【市長】

学校運営協議会は設置率が100%でない市町村もあるように聞いている。南丹市はどのようなのですか。

〔説明員〕

今年度は桜が丘中学校が設置には至りませんでした。この4月に設置ができるように整いましたので南丹市は小中学校全て100%の導入となります。

〔市長〕

学校運営協議会の人数は限られているのですか。

〔説明員〕

1校の運営協議会には5名～13名程度です。

〔市長〕

今の実情は。

〔説明員〕

年に数回集まって、学校の運営協議委員として動くのはそのメンバーです。その運営協議会が企画をした熟議は別のメンバーで、かなり人数が増える場合も多く、30人とか50人とかで熟議をやっている学校もありますので、少しずつですけれども参画したり、関わる人は増えてくる期待は持っています。

〔市長〕

特定のテーマで協議会に「頼みます」と言ったら、協議会が関係しそうな人や協力してもらえそうな人を集めて相談をして、学校を後押しをするという流れですか。

〔説明員〕

そういう流れも今後出てくるかと思えます。今、各学校では「地域学校協働本部」といって、かちつとした組織ではないですけれども、学校の応援ができる、応援をするような場面では参画、協力しようと関わってくださる方達のネットワークを作ろうとしています。先日、美山小、中の地域学校協働本部が文科省表彰を受けたのも、その緩やかな繋がりのことになります。

〔市長〕

それは全市的にそういう流れになっているのですか。

〔説明員〕

地域コーディネーターを中心に各学校でそういった緩い組織を作ろうという動きがあります。各学校の実態に応じてその進捗は差はありますが、全体的には組織を作っていきたいという動きを共有しているところです。

〔委員〕

どうしてもそういう方は、以前の評議委員会でもそうですけれども固定することが多いのでは。そうでもないですか。

〔説明員〕

発足当初はやはり旧評議委員に依頼する学校が多かったです。小学校は3～4年になりますので、メンバーもちょっとずつ交代をしてきました。少しずつですけど、なるべく広い層を入れよう、色んな立場の人を入れようとか、そういう視点が徐々に学校に広まってきているとは感じています。どうしても評議委員の世代の人は、仕事を終わられた60代、70代の方が多かったので、出足が鈍ることがあります。もう少し若い方を入れようとする学校が増えています。

〔委員〕

先日、八木西小学校で今年のカンパの動画を振り返るというものに出席さ

せていただきました。まず、年間の道徳授業時数が限られている中で色々な教科からリンクして上手く授業が行われているなど感じました。社会科の授業でまち探検をするのに運営協議会の方も同行されて、そこで運営協議会の方がその子ども達を見守っている。一方通行の気付きではなく、子どもも運営協議会の方々もそれで成長していったような、とてもいい雰囲気を感じとることができて、生きた道徳授業だと感じました。もっと保護者に浸透して発展していくために、色々な盛り上げや、工夫とかが必要になってくるとは思いますが、今の時点で子ども達の雰囲気や様子が、すごく生き生きしていて朗らかな様子であることを変化として実感しています。

【委員】

先ほどの説明で、ちょっと疑問があります。2045年の人口ピラミッドが出ていますけれども「こうなるから、こういうような形にしよう」というのが凄く引かかる。一番の肝心なことが抜けていると思う。2045年にこうならないようにする。悪あがきかもしれませんが、そこにまず根本を置きたいのです。結局、今の少子化の原因をちょっとでも取り除く方向で考えていくのが、市町村の一番大きな役割じゃないかと思うので。私の個人的な意見で申し訳ないのですが、子ども達に2点を教えてあげたいと思います。

まず1点は、命の教育ということをもっと子ども達にしたいと思います。それは子どもを産んで育てることが本当に楽しいということ、子ども達に教えてあげることが少しまだ足りないと思います。

もう1点は、将来に対する不安で一番大きなことが、年金とか、国のコロナ対策で借金が1,100兆円あって、それを子ども達は返していかないといけない。消費税が20%に上がるとかテレビとかでいっぱいやっていますから。そんなことを聞いていたら、子どもを1人しか産めない、産んで育てられないとなってしまふ。子どもをたくさん産んで育てようという気にはとてもじゃないけどならないと思う。実は1,100兆円の借金の内、半分以上は日銀がもっていて、日銀のものについては金利を負担しなくてもいい、私たちは返さなくてもいい。そういうお金のことをちょっと子ども達に教えてあげられる機会があれば少しでも将来に対する不安を取り除くことができるんじゃないかなと思います。アメリカでは資産運用とかは小学生からあたり前のことのように習っています。日本でもこういうことを少しは教えてあげないことには、子ども達は本当に日本の負債とか借金とかで重圧がかかっていると思う。私たちは教育委員会なので、子ども達に教えてあげて不安を取り除くということが出来ればと思います。

【市長】

地域道徳の背景には、少子高齢化の中で地域に残ってくれる、地域を愛して多世代と繋がりを持って残ってくれる、そういう子どもを育てていきたい。消極的といったら消極的なのです。私の意見ですが、Iターン、Uターン、定住促進、色々な取り組みをして、それもなかなか大成功しているとはとても言えない。そういう状況の中で少子化の原因というのは沢山あります。その一つひとつを地域道徳の中でも子ども達と共に学ぶテーマとして取り上げていく。委員がおっしゃいました将来に対する不安なども、子ども達はどう考えているのか。それは正しいのか、見通しがどうなのか、中には「国の借金が1,100兆円ある。こ

れをどうするのか」と質問をする子がいるかもしれない。そういう観点も今後の取り組みの中でどこかの場面で答えていくのも手かなと思う。実際、「子ども議会」でも中学生は人口減少とか地域活性化で「アスレチックの広場を作ったら」とか具体的な提案もしてくれている。そういう投げかけもこれから取り組まないといけないと思います。

【教育長】

大きな狙いは、現在の子どもと大人の道徳性をどのように色んな方面から育成していったらいいのかということ。学校教育の場面と社会教育の場面で大人も子どもも道徳性を身につけるといった基本的な部分が一番大事です。その先は少子化がどうかということまで考えないといけないですが、現時点ではやはり道徳性の部分を大人も子どももこの地域道徳と一緒に勉強する中で高めていくこと。まずそこが基本にあって、それから進んでいくもの。5年後、それ以外に発展していけばいい。来年は大人も子どもも一緒に道徳の授業を受けていただいて、そして同じ教室で保護者の意見とか子どもの意見とか出しながら道徳性を色々考えて議論していくこと。そういう発展的なものに来年度はもって行って、その先は地域全体が挨拶を通じて子どもも大人も道徳性を高めていこうというのが基礎基本の狙いであります。その先の発展は色々と考えていただかないといけないですが、今現在、教育委員会が考えているのは、大人も子どもも基礎基本の道徳性の育成を、この3年計画でやっていくのが地域道徳の狙いです。5年先にはどんどん色々なことを考えていかないといけないと思いますけれども、とりあえずは基礎基本の道徳性の育成を目指そうということです。

【市長】

委員のおっしゃっていた命の教育、産み育てる、これは女性だけではなく男性も含めて、その素晴らしさ、楽しさとかは、また別のテーマで別の教育プログラムの中でやっていただけたらなと思います。

【教育長】

すでに園部中学校では「命の教育」で、学校全体の教育の中で戦争体験をした方を呼んで、命の大切さ、命に繋がる教材を提供して、やってもらっています。道徳と命というというのは大事なもので、その接点は現在、学校で取り組みを進めていただいております。

【委員】

地域の人々の戦争体験を小学校の時に語ってもらったことがある。随分前に亡くなられましたけれども、地域のおばあさんで涙ながらに、大阪に住んでおられた時の大阪空襲の話。それはいまだに鮮明にその時のことを覚えている。やっぱり小学校とか幼少期にそういう語りを聞くというのは非常に大事だと思います。

【説明員】

修学旅行は、南丹市のほとんどの中学校が長崎方面に行かせてもらいました。その中で事前学習で平和についての学びをたくさんいたしました。たまたま戦争体験者のお孫さんが中学校3年生で、コロナ禍の中だけどそういう学びを中学校でやっているとことに感銘を覚えていただき、ご自分が体験されたことを手記にして中学校に送っていただいたことをきっかけに、それを教材化しましてまた子ども達に伝えさせていただく。それは園部中学校の例ですが、各中学校

においても学びの機会ということで平和についての教育、学びをいたしております。

【委員】

小学校では読み聞かせの時間で、終戦の時期であればそういう本を選ぶ方もいらっしゃる。本での体験ですが小学校の間にもすることがある。中学校になったら修学旅行や講演で、実際に色んな思いや気持ちを考えたりすることができると思います。

【市長】

今の地域の実態を、地域の課題を見据えた教育を取り組んでいくのには、地域と連携して、地域と共にある学校ということで地域道徳の教育を進めていくということと、一方では今おっしゃった命の大切さ、平和の問題も含めて色々な角度から南丹市の教育の方向性をさらに磨いていってほしいと思います。地域道徳のことは一定、教育委員さんも市も理解できましたし、これから充実期、発展期、どういう成果があがってくるのか楽しみです。

次の項目に移らせていただきます。

(2) 令和3年度南丹市のまちづくり重点事項について

○市長から資料により説明

【要旨】

- ・令和3年度の南丹市のまちづくりの重点事項として、5つの政策の柱を挙げている。これは3年間変えていない、大きな目標である。
- ・5つの政策の柱に基づく主な内容を説明する。
 - 1 子育て環境を充実させ、若者が定住できるまちづくり
 - 2 農業振興や企業誘致による産業に活気のあるまちづくり
 - 3 福祉や防災など、安全で安心な暮らしを守るまちづくり
 - 4 地域の個性を生かしたまちづくり
 - 5 教育・文化の振興と人権尊重のまちづくり
- ・1人あたりの教育費を府内の他市と比較すると、本市は財政が厳しい中ではあるが相当かけている。貯金を崩して何とか取り組んでいる。
- ・10年後を見据え、重複施設の統廃合や民間の活力を利用して市の負担を軽減していきたい。

【委員】

私からは2点。市長も古き良きものや歴史を大事にしてまちづくりに生かしていきたいという考えだと思います。教育委員会は文化財行政を担っているところがあります。美山の場合ですと、かやぶきの里のような景観、農村景観、集落景観をもっと南丹市の要所要所にさらに増やしていくこと。近代化されているところは難しいですが、昔ながらの風景を残しているところは、文化的景観、重伝建とかで地域住民と対話をしながら、風景を残していくことで、住んでいる者はそこに誇りを持つことになりまして、そしてまた遠くに離れている南丹市出身の方も、久しぶりに帰ってきたら、昔ながらの風景があることは大きな生きる力になったりもします。そうすると交流人口も増えますし、その先は定住に繋

がるかもしれない。誇りを持って育った子どもも親も、後継者についても地元でということも多くなってくると思います。大きな集落計画というものを、市長の「昔ながらの物を残す、大切に作る」という一項に入れていただいたら大変嬉しく思います。

それと以前から「本を読もう」と市長はおっしゃっています。図書館から遠い所の方がいらっしゃるので、誰もが本に触れ合える機会を増やすこと、拠点を増やすようなことができないかと、後ほど社会教育課長と相談させていただこうと思っております。

〔委員〕

防災の件で、私の経験からですが、東日本大震災の時に埼玉に住んでいまして、その時に学校の下校時間に地震が起きて埼玉も凄く揺れました。普段、小学生は避難訓練をしていますけれども、いざとなると通信機能が全部麻痺してしまって、その時も携帯電話も固定電話も繋がらなくて、結局、避難訓練どおりにはいかず、連絡が取れないので自分の足で子ども達を迎えに行きました。

南丹市では山もありますが、いざとなった時、無線もありますが、そういう麻痺した状態でもちゃんと繋がるようになっているのか、大丈夫なのかという確認です。

〔市長〕

この前の台風で、大阪湾で船が関西空港連絡橋に衝突したあの時に、大風が吹いて軒並み木が倒れて、電線が断線しました。一番困ったのは水道施設で、ポンプが動かなくなった。それから全域ではありませんが、防災無線の基地局が長老山の上にあります、それが断線で使えなくなりました。自家発電装置がありましたがガソリンを入れないと持たないので、背中にガソリンを背負って職員が補給に行き、なんとか保てました。防災無線も電源がなければ動かない。携帯電話の基地局や中継局は電気を使っています。電気のインフラがやられると水は出ない、電話はできない状態になります。

今、学校でやられている防災訓練は、想定できない時には自分で考えて行動できる、基本的な知識はいりますが、津波があつたらできるだけ高い所に逃げるといこと、一応ルートは決めたりしていますが、自分で考えて逃げる行動ができるような体制が必要だと。南丹市の場合は連絡網の関係でいえば、消防団はデジタル防災無線を新しくしました。これはバッテリーがある間はいけます。防災行政無線は電気が喪失したら終わりです。携帯電話も電気が無くなったら終わりです。ご期待に応えられないのですけれども、無茶苦茶になったらどうしようもない。そういう時に何が大事かという、それぞれがそれぞれで自分の命を守るために、備蓄なり最低限の備えをしてもらう。子どもが外に出ていたら連絡がとれないことがあります。復旧は割と早くします、その後で連絡を取り合うことになります。防災情報を流すのはもの凄く大事なことで、ケーブルテレビは1ヶ所が切れても大丈夫なように京丹波町からも一本延ばしてダブルルートで流している。いざという時に、テレビ放送を流せる、インターネットも繋がるようにしております。絶対大丈夫というのはいくらお金があつてもできない。それは無理です。

〔委員〕

防災の自分で考える力も、学校、現場、色々な所でも、家でも、子ども達につけてもらえたらと思います。

〔市長〕

木村教育長、自分で考えて逃げるというのは。

〔教育長〕

これは議会でも答弁させていただいた。防災時のそういう質問が議員からありました。市長がおっしゃられたように、自分達の身は自分達で守るとか、今、学校ではそういう訓練を十分していただいている。東日本大震災の、大川小の地震の時の学校の対応の悪さが指摘されています。今年度の始めの校園長会で、あの教訓を無駄にせず、例えば学校で地震が起きたらどこへ逃げるかというシミュレーションをもう一度見直すこともしっかり指導もさせていただいた。市長が言われるように大きい地震が起きたら動きようがないので、そういう時には、例えば家族でどこに集まるとか、家族の中でも打ち合わせもいると思います。学校教育の中では基礎基本は教えていただいている。ただ、応用になるとやはり心配な部分があります。

〔市長〕

丹波盆地で大地震の発生する確率は、そんなに高くないと言う方もあります。地震が無いことを祈っています。水害は起こります。そればかり心配しております。

（３）教育課題について

〔市長〕

始めにいくつか課題があると申し上げましたが、まだまだ議論していかないといけない、対応していかなければならない課題はたくさんあると思います。今日は時間がなくて議論できなくても、きちっと課題をあげておくことが大事です。他所では総合教育会議を年に何回かやっておられる所があります。度々はできませんが、いくつかテーマを立てながら、本市の教育と行政の進み方、方向についてご議論をお願いできたらと思います。一番、最近気になることを聞かせていただければと思います。

〔委員〕

今日、園部幼稚園の卒園式に行ってきたのですが、その場で園長先生から保育士さんの数のことを聞きました。南丹のぞみ園ができるので南丹市から２人が協力に行く話をされた。人数が足りているのなら出せるのだけれど、人数が少ないのでこちら側が困りますということをしていました。保育士の数が本当に足りないの、何とか市長にもっと増やせる施策を考えていただけたらと。保育所を開設してもらいたいのですけれども、人数を増やしていただくことをお願いできればと思います。

〔市長〕

家庭の事情で、例えば実家のお母さんがお年で「私が面倒を見ないと仕方ないので」と辞める保育士さんがいますが、それ以外の人はどういう事情か知りませんが、何人か辞めていかれます。のぞみ園で打ち合わせしている時に、南丹市

でも応援していかないと、向こうも立ち上がらないといけないし、その時点では保育士は足りないことはなかったのですが、その後何人か辞めてしまわれた。のぞみ園に行きたいという保育士さんが2人の内の1人です。1人は再任用職員で、現役60才までの職員ではないです。あまり影響が出ないように、再任用の方をお願いした。こちらに一定の数がいたのですが「辞めます」という人が何人か出てきた。若い保育士さんは、夢と希望を持って就職していただいても、現実にはやはり厳しいので、なかなかしっかり定着できていない部分があります。その部分の課題は解決していかないといけない。それはやはり職場の中の人間関係、新しい先生方をフォローしていくような体制づくりが一番大事なのです。課題はわかっているのですがけれども、なかなか上手く機能していないので反省しています。

[委員]

よろしく願いいたします。

[市長]

ギリギリのところまで低空飛行です。これ以上減ったらクラスを閉めないといけない状況になってしまいます。募集して正職員を雇ってはいるのですが、どんどん多い目に雇ったらと言いますが、子どもの数が減ってきたら、長期的には保育士さんの予備の予備までとっていくことはなかなかできない。現場にはこういう意見が出ているというのは伝えさせてもらいます。

[市長]

日ごろの教育委員会の中で色々出していただいたご意見も教育長から日々、聞かせていただいております。定例の教育委員会が都度開かれておりますので、またご意見をいただきますようよろしく願いいたします。

<2> その他

[市長]

その他、何かございませんか。

(特になし)

<3> 閉会

[事務局]

以上をもちまして、令和2年度第1回南丹市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。